≪トップヒートバリアー遮熱工法≫は

**夏場のピーク時の屋根からの熱量の“95%”をカット**

夏は涼しく、冬は暖かく、**大幅少エネを実現します。**

断熱材では暑さ・寒さを防げません・・・

　 断熱材はまるで熱の塊の様になってしまいます。

　夏場、夜遅くまで熱いのは、この蓄積された熱がジリジリ放出されるため。冬場、冷熱の塊になりいつまでも寒い環境となります。

トップヒートバリアー遮熱工法の重要性・・・

断熱材で処理できる“伝導熱”は5~7%、あとは目に見えませんが、93%が輻射熱です。この遮熱工法はこの輻射熱の98%をカットすることが出来ます。従って、真夏に38℃でもエアコン不要の環境を作り出す事も出来ます。冬場も同様な効果を発揮しますので、大幅な省エネが実現します。

遮熱のもう一つの特徴は輻射熱がカットされると、体感温度が変化することにあります。室内温度が体温36.5℃以下の温度では、暑さを感じにくくなります。逆に冬場は低温でも寒さを感じにくくなります。

株式会社 すからべ

**E-mail :** **holy@scarabee.co.jp**

≪トップヒートバリアーの得意技は

驚異的な電力削減≫

“デマンド値の低下”で大幅な電力削減・・・

“500KWh”を越える大口電力需要企業の基本料金はデマン　ド値契約ですが、“デマンド値”は使用電力が最も大きい時期で決まります。又、一度決まると一年間この数値が使われますので、少ない他の月は基本料金のロスと言えます。

デマンド値を高くする要因として、夏場の建物への熱が大きく影響します。一般に大型建物の屋根からの熱の侵入は全熱量の85～90%に達しますが、これを効果的にカットできる方法はありませんでした。

夏場、ピーク時の屋根からの熱量の95% をカット・・・

 伝導熱、対流熱、輻射熱全てを伝導熱に変え、この伝導熱の阻止工法 【 ATIS & AYAS 】 により大幅な電力の削減をし（40～50%）、地球温暖化対策に積極的に貢献します。　　　阻止工法・“工法特許取得”